

「復興スピード、非常に遅い」

がれき処理進まず

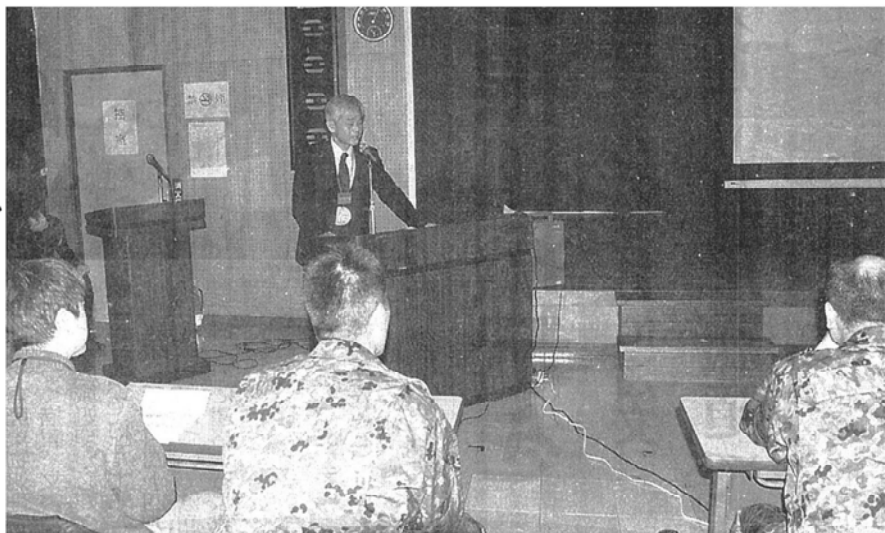
震災被災地派遣 職員ら現状を説明 津で報告会

東日本大震災の被災地に「の報告者は、刻々と変わる派遣された行政や県警、医療機関、自衛隊の活動報告会が二十一日、津市広明町の県水産会館であり、約百四十人が出席した。十二人

に遅い」などと訴えた。鈴木英敬知事は「被災地では、まだ不安に思っている。傷が癒えていない人も。みんなで一丸となって息長く支援をし、震災で得た教訓を県内の防災対策にも生かしてほしい」とあいさつした。

震災半年後に宮城県東部地方振興事務所に派遣された県桑名農政環境事務所農村基盤室の川瀬政彦主査は、現在までがれき処理が進んでいない状況を示し、「現場の時間は止まったまま。復興のスピードは非常に遅い。ゴールの見えないつらさを現場は抱えている」と説明。震災直後から

宮城県南三陸町で勤務した県尾鷲保険福祉事務所福祉相談室の川添洋司室長は、「業務は生き物のように変わり、状況は刻々と変化していた」と振り返った。また岩手県塩釜市で活動した名張市高齡・障害支援室の奥村和子室長は、「被災県と支援県は国が調整していたが、被災市と支援市の調整も必要」とし、茨城県東海村で業務に当たった荻野町都市整備課の板東克典副主幹は、「派遣、時期の調整による対応の遅れが出たほか、派遣職員の準備不足が課題となった」と述べた。



被災地での活動を報告する発表者＝津市広明町で